

1 学年 道徳授業地区公開講座

○教材名

『ふと目の前に 森繁久彌』

○教材のあらすじ

公演中寝ているように見えた女性は、実は全盲の人であった。森繁さんは怒った自分を申し訳なく思うと同時に、拍手する彼女の手をとって感謝の気持ちを伝えた。

○ねらい

それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容な心を持ち、謙虚に他に学ぼうとする心情を育てる。

○授業の流れ

	学習活動
導入	今思えば、あれは単なる誤解だったというトラブルや笑い話を出し合う。
展開	①最前列で寝ている女性客を見つけたとき、「私」（森繁さん）はその女性に対してどのような感情をもったでしょう。 ②女性が全盲だとわかったとき、「私」の心の中に湧き上がってきたのはどんな感情だったのでしょうか。 ③全盲の女性に対して「私」の言った「ありがとうございました」には、どんな思いが込められていたでしょう。 ④「私」の行動からどのようなことを考えましたか。
終末	授業を通して、学んだことや、他者に対して良好な人間関係を築くにはどのようにすればよいか、感じたことを書く。

○授業の様子

今回の授業の中心発問である「全盲の女性に対して『私』の言った『ありがとうございました』には、どんな思いが込められていたでしょう。」という問いに対する場面では、まずは個人で深く考え、その後のグループ対話で他者の考えから自身の考えを深めようと積極的に意見を交換する様子が見られました。



○生徒の反応（ワークシートより）

「何事にも、すぐに自分で思ったことで行動はせず、その事をしっかり見たり、聞いたりしてから決めることが大事だと思った。」

「最初から決めつけてしまうと自分も相手も嫌な思いをすることもあるからまずは、ちゃんと相手を知ることが大切にしたい。」

「思い違いで決めつけるのは悪いと思った。自分も家族に勘違いをするから気を付ける。また、間違ったことは素直に謝る。」

○学年の道徳担当から一言講評

今回の道徳を受けて、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容な心をもち、謙虚に他に学ぼうと心情がより育まれたと思います。今後も続いていく人間同士のふれあいの中で活かしていくことを期待しています。

2 学年 道徳授業地区公開講座

2 学年では、さだまさしさんの楽曲「償い」を教材として授業を行いました。テーマは「よりよく生きる喜び」です。たった一度の過失で他人の命を奪ってしまった「ゆうちゃん」の償う姿に触れ、登場人物の心情を推し量りながら、人は犯してしまった過ちや罪に対してどのように向き合っていくかということについて考えました。

○教材のあらすじ

ゆうちゃんは、月末になると給料袋の封も切らずに必ず郵便局に飛び込んでいく。仲間は彼を嘲笑うが、「僕」だけがその理由を知っていた。ゆうちゃんは、たった一度、ブレーキが間に合わずに死亡事故を起こすという哀しい過ちを犯していたのである。他人の命を奪った償いのために被害者の奥さんに仕送りを続けていたが、ある日その奥さんから許されたと思える手紙が届いた。

○ねらい

人間としての誇りを失わず、過ちや罪に対して精一杯の誠意をもって生きていこうとする態度を養う。

○授業の流れ（簡単に）

	学習活動
導入	過去の自分の間違いや失敗について振り返り、どうやって克服したのかを考える。
展開	・教材を読む。 ・ゆうちゃんが償う姿や手紙をもらった時の姿を見て「僕」が何を感じたのか考える。 ・この詩が訴えたかったことは何か考える。
終末	・授業で考えたことや感じたことを書く。

○授業の様子

教科書を見ながら、静かにさだまさしさんの「償い」を聴いていました。



加害者側、被害者側それぞれの立場に立って気持ちを想像する生徒や、やりきれない感情をうまく言葉で表現できず、もどかしそうにしている生徒もいました。話し合い活動を行うと、友達の考えを自分の意見と照らし合わせて熱



心に聞く姿が見られました。

○生徒の反応

「詩が何を訴えているか」という問いには、「命の重み」「大きな失敗をしてしまっても、思いやりをもって気持ちを伝えることが大切だということ」「事件を起こした人の人生は変わってしまう。罪悪感は消えない」「償う気持ちをもち続ければいつか相手に届くことがある」など、様々な意見が出ました。

○学年の道徳担当から一言講評

過ちを犯してしまうことは誰にでもあり、それだけにどう向き合って生きていくのが大切です。大変重い内容の詩ではありましたが、多くの生徒が真剣に読み、よりよく生きようとする態度についてじっくりと考えていました。

3 学年 道徳授業地区公開講座

3 学年では各クラスで「二通の手紙」を教材として授業を行いました。テーマは「法やきまりを守る」です。各クラスで、登場人物の「元さん」の判断について、「きまり」の意義とそれを守ることの難しさについて考えました。

○教材のあらすじ

動物園職員の元さんは、「子どもは保護者同伴で」「入園時間は4時まで」という規則を破って、その日が誕生日だという幼い姉弟を動物園に入園させてあげた。しかし、閉園時間になっても姉弟はもどらず、全職員で捜索することになってしまった。結局、姉弟に大事はなかったが、元さんは姉弟の保護者からのお礼の手紙と、園からの懲戒処分のお知らせという二通の手紙を受け取ることになる。

○ねらい

法やきまりの必要性や意義を考え、規律と秩序あるよりよい集団や社会を作ろうとする態度を養う。

○授業の流れ

	学習活動
導入	「きまり」があつてよかったこと、嫌だと思ったことについて考える。
展開	・教材を読み、「元さんの判断を支持しますか、しませんか？」という問いで意見の交流をする。 ・「二通の手紙」から元さんが考えさせられたことはどのようなことか考える。
終末	・授業で考えたこと、今後に生かしたいことを書く。

○授業の様子

「元さんの判断を支持するか、しないか」の問いでは、各クラス全体で挙手したり、班で話し合ったりと工夫を凝らして、個々の意見や考えを表明してい



ました。友達の支持・不支持の理由を聞いて、自分も考え直す場面も見られ、「どっちが良いのか分からなくなってきた」というつぶやきも聞かれました。班活動は、和やかな雰囲気で行われ、グループ内で意見が分かれる場面でも、お互いの考えをよく聞き合っていました。



○生徒の反応（ワークシートより）

「思いやりだけで、無責任な判断をしてしまうと、取り返しのつかないことになってしまうかもしれないのだと思った。正しい判断ができない状態のときは、他人に相談したり、よく考えてからにすると良いと思った。」「思いやり、良かれと思ったことでも必ず良いこと（結果）になるとは限らない。100%情ではなく、40%の思いやりと60%の理性くらいがちょうどよい。」「今日の授業で、規則は何のためにあるのか考えた。」「きまりは守らなければいけないけれど、破ることが完全に悪いことでない場合もあったりするのが難しいと思った。」

○学年の道徳担当から一言講評

様々なきまりのある日常生活ですが、「きまりはなぜあるか」はあまり考えずに過ごしています。立ち止まって考える良い機会になったと思います。規則と思いやり、実際の生活の中で、どちらを優先するか葛藤することは少なくありません。その判断の難しさを実感する授業でした。